

教育委員大綱 策定に係る意見と対応について

▼表紙

意見等	記載変更内容(削除→見え消し、追加→下線)
①年度更新 ②写真更新	①適用期間:令和 元 <u>5</u> ~ 4 <u>8</u> 年度 令和 元 <u>5</u> 年 12 <u>●●</u> 月 18 <u>●●</u> 日 ②元気な教室風景(キャプションは入れずにイメージ活用)

1. ふるさと教育

(1)丹波篠山ほど良いところはない……日本遺産のまち、農の都

意見等	記載変更内容(削除→見え消し、追加→下線)
<p>①ふるさと教育の目的として、ふるさとを愛する心(郷土愛)の育成と共に、シビックプライドの観点から「当事者意識を持って主体的にふるさとづくりに関わる心の育成」を明記する。(丹後教育長)</p> <p>②豊かな篠山の自然を通じて、人類が将来の世代に渡し、幸せな生活ができるよう学び、活動する機会をつくります(持続可能な開発のための教育を明記されてはとを考えます)。(山本委員)</p> <p>③ふるさと教育を推進する側(教職員・地域住民等)の視点として、「ふるさとキャリア教育」を踏まえ、子どもたちが今後の人生に生かせる基礎的・汎用的能力(目標意識・意欲・関心等)の育成を心掛ける。(丹後教育長)</p> <p>④「ふるさとを大切にする教育」「ふるさとを誇りに思う」「ふるさとを担う」とも大切なことで、素晴らしい教育だと思います。良い案はないのですが「丹波篠山ほど良いところはない」をもう少し比較(?)しない文言はないでしょうか？(鈴木委員)</p> <p>⑤加筆や修正ではないのですが…参考指標の農業体験活動は学校の規模などにより内容に差があるように感じます。また農業体験活動を実施するだけでなく、その先にもう一つあると最終的な「担う」につながるような気がしています(鈴木委員)。</p>	<p>①加筆修正 ～自らが<u>当事者意識を持って主体的に</u>いろいろな形でふるさとを担うことの大切さを実感できる教育～に含んでいます。</p> <p>②③加筆修正 ～などを<u>通じ、丹波篠山市の良いところを学ぶ機会をつくり子どもたちが将来に渡し</u> <u>幸せな生活ができるよう、目標意識・意欲・関心等の能力を育成</u>します。</p> <p>④どこにも負けていないというメッセージを込めています。</p> <p>⑤実施計画である毎年度策定の「丹波篠山の教育」の中でよりふさわしい指標の検討をしていきます。</p>

1. ふるさと教育

(2) 丹波篠山の食をいかした学校給食……地元食材活用率日本一

意見等	記載変更内容(削除→見え消し、追加→下線)
<p>①丹波篠山の食材を活かした学校給食……(山本委員)</p> <p>②全国学校給食甲子園の実績を加味(事務局)</p> <p>③三行目「取り入れています。」に続いて)これらを活かした食育を学校等で進めるとともに「地元食材……」(西田委員)</p> <p>④丹波篠山は令和5年4月にオーガニックビレッジ宣言をしていますが、そこは給食とは関わることはないのでしょうか？(鈴木委員)</p> <p>⑤「農都のめぐみ米」や有機栽培野菜の活用を通して、子どもたちに地元農業や食材、自然環境への関心や生産者への感謝の気持ち等を育成する。(丹後教育長)</p>	<p>①②修正・削除</p> <p>(2) 丹波篠山の食材をいかした学校給食……地元食材活用率日本一 <u>おいしい給食</u></p> <p>③④⑤加筆</p> <p>～取り入れています。<u>また、生き物や自然環境にやさしい栽培方法で作られた「農都のめぐみ米」やオーガニックヴィレッジ宣言をした地元産の有機栽培野菜の活用を通して、子どもたちに地元農業や食材、自然環境への関心や生産者への感謝の気持ち等を育成します。</u></p> <p>これらをいかし、「地元食材活用率日本一」の学校給食をめざします。</p>

1. ふるさと教育

(3)自然とふれあう教育……学校にヒーローをつくろう

意見等	記載変更内容(削除→見え消し、追加→下線)
<p>①篠山の自然を地球規模で捉え、自然を守り活用できる力を育てることが必要です。その中で未来像を予測して計画を立てる力、他者と知恵を出し合い協力する力、多角的・総合的に考える力、進んで参加する力などを養います。(山本委員)</p> <p>②丹波篠山市には豊かな自然環境があり、それを活用して自然体験活動を積極的に取り入れることで、子どもたちの自己肯定感や道徳観・正義感、大人ってからの人間関係などの、将来を豊かに生きるための非認知能力の育成が図られることを明記する。(丹後教育長)</p> <p>③最後の行 ある「ふるさとを大切にする」を「ふるさとを愛する」に変更。(西田委員)</p> <p>④本文:6.にある「木育」をここに入れる。(吉良委員)</p> <p>⑤自然とふれあう教育の中に「森林との関りや、木育」の推進も入れる。(丹後教育長)</p>	<p>①②加筆・修正</p> <p>丹波篠山市には、山、川、田<u>となどの</u>自然環境が豊か<u>でなため</u>、そこに生きる動植物も豊富ですが、<u>手入れされていない山やコンクリートで囲まれた川や水路が増えたため、体験の機会が少なくなったことに加え、遊びの多様化などもあり、子どもたちは昔のような自然と触れあう体験が乏しくなっています。体験の機会が少なくなつたことに加え、遊びの多様化などもあり、さらに自然への関心の低下を招いています。</u>しかし、丹波篠山の将来を担う子どもたちにこそ、魚採り、虫採りといった自然と触れあう体験を通して、ふるさとへの愛着を育む<u>とともに、自己肯定感や道徳観・正義感など、将来を豊かに生きるための非認知能力を育成する機会</u>が必要です。</p> <p>③修正</p> <p>そこで、学校ごとに、オオムラサキ、オオサンショウウオ、モリアオガエル、オヤニラミ、サギソウなど、地域の特色ある動物や植物(ヒーロー)、<u>に</u>自然に触れながら学び、育てることで、命の大切さ、思いやりの心、生きる力を育むとともに、ふるさとを<u>大切に愛</u>する気持ちを高めます。</p> <p>④⑤文末に加筆。</p> <p><u>また、幼児期のどんぐり拾い、丹波篠山産材を使った施設や玩具などに触れる環境づくりを進め、学校教育の中で、子どもたちが「木の香りやぬくもり」を身近に実感できる「木育」を推進します。</u></p>

⑥学校のヒーローを作ることが「魚採り」や「虫採り」につながるのかは疑問です。
(鈴木委員)

⑦丹波篠山の自然環境の特徴は、地域の生業(農業、森の活用)が生きものの生息地保全と密接にかかわってきたことにあります。また「学校にヒーロー」は子どもたちにとっては分かりやすい一方、学びとして地域とのつながり(ふるさと感)を体感するには少し距離があるように思います。珍しいいきものでも、ありふれた生きものでも学校のある地域環境と歴史、人が活用することで伝えられていく自然もあるという体感がふるさとでの仕事と自然環境への興味関心につながると考えます。自然素材を使う、その生産の場もあるというのが丹波篠山の強みです。(吉良委員)

⑥⑦学校のヒーローは、多様な取組の象徴として記述しています。

2. 子ども・子育て支援の充実

(1)就学前の保育環境の整備

意見等	記載変更内容(削除→見え消し、追加→下線)
<p>①3行に続いて また、子育て世代を支援するため、様々な施設を活用した繋がり の場を提供します。(西田委員)</p> <p>②(1)(2)は重要で、その他に「誰一人取り残さない」子育て支援の充実のため には、ひとり親や外国籍の方、祖父母や親族のいない移住者、心に病を抱える 等の方々を、孤独から守り子育てしやすいシステム作りを検討いただきたく思いま す。(山本委員)</p> <p>③「情報発信」について…環境整備だけでなく、情報発信を充実させ、より多くの 子育て世帯の方に情報を届けることが大切かと思えます。子育ては産んでからで はなく、マタニティ期からだと思えます。そこに力を入れることで、産後も充実した 日々を送れるように思えます。が、現実には多くの方が出産直前まで働く時代なの で、難しいのかもしれませんが。(鈴木委員)</p> <p>④設備等のハード整備の他に保護者のつながり、コミュニティの場が求められて います。少子化の進展、予算の厳しい状況下ですが、よろしく願いいたしま す。(吉良委員)</p> <p>⑤「子育てするなら丹波篠山」丹波篠山の子育て施策の充実、特に子育て期の 孤独を解消する「人とのつながり」を大事にした施策を展開していることを明記す る。(丹後教育長)</p> <p>⑥子育てを地域の人が助け、子どもが地域に入ることで地域も元気になるウイン ウインについても言及する。(丹後教育長)</p>	<p>①～⑥に加筆</p> <p>タイトル</p> <p>(1) 就学前の保育環境の整備……<u>子育てするなら丹波篠山</u></p> <p>文末</p> <p><u>また、子育て世代を支援するため、情報発信を充実させるとともに様々な施設や機 会を通じて、保護者同士や地域等が「つながる」場を提供します。</u></p>

2. 子ども・子育て支援の充実

(2) 早寝・早起き、朝ごはん

意見等	記載変更内容(削除→見え消し、追加→下線)
<p>①「子育て一番」をここでアピールできましたら、と考えます。産前から成人まで、連続的で包摂的な支援があることが子育てしづらい方々にとっては安心ではないかと思います。(山本委員)</p> <p>②子どもたちの生活リズムの向上を図る「早寝・早起き、朝ごはん」ふたばプロジェクトに当てはめると、 ぐっすり眠って＝早寝・早起き たのしく食べて＝朝ごはん たっぷり遊ぼう＝？(主な作成物の“あそぶっく”があてはまると思いますが、文言にはないので…) (鈴木委員)</p>	<p>① 2(1)の加筆を含む</p> <p>② —</p>

3. 地域とともにある学校

(1)コミュニティ・スクール……市民みんなで学校づくり

意見等	記載変更内容(削除→見え消し、追加→下線)
<p>①2行目「取り組んでいます。」に続き「地域とともにある学校づくり」を挿入(西田委員)</p> <p>②4行目「参画しています。」につづいて また、コミュニティ・スクールをすべての園にも導入し、幼・小一体施設として拡充していきます。(西田委員)</p> <p>③コーディネーターとなる方の発掘とその人材育成がに力を入れるとともに、教員と地域住民、保護者が「どんな子供に育てたいか」について熟議を重ね、なおかつ子どもの意見も尊重しながら学校運営を行うことが、大切であると感じます。(山本委員)</p> <p>④教員だけでなく、市民、保護者、地域住民…市民や地域住民に含まれるかとは思いますが、もう少し若手の人材も巻き込むニュアンスだと良いかと思えます。(実際のところ「コミュニティ・スクール」や「学校運営協議会」の存在はどのくらいの保護者が理解しているのでしょうか？そのあたりも情報発信が必要に感じます)(鈴木委員)</p> <p>⑤意見:「学校の抱える課題」は置かれた環境、規模によって市内でも大きく異なっています。学校⇒地域、地域⇒学校の双方向で議論、企画、実行、変更、廃止、新規取組みなど、コーディネーターの存在、育成が必要になってきています。(吉良委員)</p>	<p>①②加筆 丹波篠山市では、新しい学校づくりに向け、「コミュニティ・スクール」の充実に取り組んでいます。<u>「地域とともにある学校づくり」</u>「学校は市民みんなのもの」という意識を持ち、教員だけでなく、市民、保護者、地域住民が一体となって学校運営に参画しています。<u>また、コミュニティ・スクールをすべての園にも導入していきます。</u></p> <p>③～⑤文中に含む。 施策の中で、地域人材の活用、情報発信の充実に引き続き取り組んでいきます。</p>

3. 地域とともにある学校

(2)高齢者とともに学ぶ……おじいちゃん・おばあちゃんも学校へ

意見等	記載変更内容(削除→見え消し、追加→下線)
<p>①高齢者との関わりの機会創出として大切な取り組みだと考えます。社会教育の視点としては、「仕事」の部分との接点(つくる、売る、サービスなど)にもふれたいところです。(吉良委員)</p>	<p>①加筆・修正 学校を新たな生涯学習の場とし、<u>高齢者の持つ知恵や技術や仕事経験などを活か</u> <u>し</u>高齢者大学を学校で行うことや、子どもたち(小学生など)と高齢者が同じ校舎で学ぶ「オープン講座」の開催など、<u>ともに学習発表をするなどの機会をつくることによ</u> <u>り</u>、子どもたちの多様な価値観を育み学習意欲をさらに高めます。</p>
<p>②高齢者大学と市内の小中学校との学校連携事業を知らない(鈴木委員)</p>	<p>②協力者を増やしていくためにも、引き続き取組の周知に努めます。</p>
<p>③高齢者大学と幼稚園・小学校等の交流による学びは、多くの相互効果があり、有効であるため、特に意見はありません。(山本委員)</p>	<p>③ —</p>

4. 学力の確立と向上

(1) 読み、書き、計算、自己表現……一人も見捨てない

意見等	記載変更内容(削除→見え消し、追加→下線)
<p>① 「一人も見捨てない」を「誰一人取り残さない」に変更。(西田委員)</p> <p>② 見捨てない → だれ一人取り残さない？誰もが公平に？(鈴木委員)</p> <p>③ 西田委員の意見にも合った「とり残さない」へ(吉良委員)</p> <p>④ 「一人も見捨てない」を「誰一人も取り残さない」に変える(丹後教育長)</p> <p>⑤ 基礎学力の確立は、どんな社会の中でも生き抜いていくためのものであることを根底に置き、身についた学力を活用(アウトプット)し、他者と協力して目的に向かう姿勢の育成が必要であると思います。現教育大綱と大きく離れた意見はありません。ただ、文言として可能であるならば、「何のために学力の確立と向上が必要なのか」についての簡潔明瞭な記載があれば、救われる子どもや保護者も少なくないのではと思います。(山本委員)</p> <p>⑥ 「読み、書き、計算、自己表現」も良いが、他にも思考力や判断力、協調性(コミュニケーション力)等も大事な要素だと思う。(丹後教育長)</p> <p>⑦ 塾に通ったり家庭学習ができない事情のある子どもも居ることから、「学校の授業だけでも確かな学力が身につく」篠山の教育を目指していただきたいと願います。もちろん、授業が面白いものならば子供は好奇心から「もっと勉強したい」と、家庭でも自主的に学ぶこともあると思います。受け身ではなく、自主性が育つ教育に取り組んでいただきたいと願います。(山本委員)</p>	<p>①～④加筆・修正</p> <p>(1) 読み、書き、計算、自己表現……<u>誰一人も見捨て取り残さない</u></p> <p>⑤⑥加筆・修正</p> <p><u>義務教育を通して劇的に変化する社会において、子どもたちが豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の作り手となることができるよう、確かな学力を高めます。そのキーワードとして、「読み、書き、計算、自己表現」を掲げます。「読み、書き、計算」などの基礎的・基本的な学力に加えてとともに、思考力や判断力、協調性等を育成します。その上で、“自己表現”する力を育み、自分の考えを伝え、人とつながる中で学びを深める学級づくり・授業づくりに引き続き取り組みます。</u></p> <p>⑦(記載はしませんが、)主体的な学習習慣の育成に引き続き取り組んでいきます。</p>

⑧集団生活の場である学校の特色として、自己表現、協働で学びを深めるというのは個々の学力向上と並んで重要な要素と考えます。ICTにより調べる、伝えるツールの幅は広がりましたが、「確かな知」「実感にもとづく暗黙知、身体知」「STEAMの土台」をどう育んでいくか一緒に考えていきたいと思えます。(吉良委員)

⑧今後の施策の中で検討していきます。

4. 学力の確立と向上

(2) 市内3高等学校との連携……丹波篠山で高校まで安心

意見等	記載変更内容(削除→見え消し、追加→下線)
<p>①「市内3高等学校との連携」を「魅力ある高校づくり」に変更し、市内に魅力ある高校があることの重要性とそれをつくるため市を挙げて高校と連携をしていく。(丹後教育長)</p> <p>②検討会の開催ありがとうございます。進路について具体的に検討しはじめる高校時代。「ふるさと教育」のつながりについて今後とも意見交換宜しく願いいたします。(吉良委員)</p>	<p>①加筆・修正</p> <p>(2) 市内3高等学校との連携……丹波篠山で高校まで安心</p> <p>丹波篠山市には、特色のある県立高等学校が3校あり、ます。子どもたちの<u>将来を考</u> <u>える上で、市内に魅力ある高等学校があることは重要です。</u>がどのような進路を選ん でも、市内で安心して高等学校教育を受けることができるよう、充実した高等学校教 育への支援、中学校とや高等学校の<u>と連携し、生徒一人一人の個性を伸ばし、生き</u> <u>る力を育む教育の実現</u>に取り組みます。</p> <p>② —</p>

5. スポーツに親しむ

意見等	記載変更内容(削除→見え消し、追加→下線)
<p>①大きく新しい意見はありませんが、スポーツを通じて、世代を超えた交流が今後ますます市内で活発にできれば良いと思います。(山本委員)</p> <p>②また、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、障害を抱える方々や外国籍等の方々もスポーツに親しみ、様々な人々と交流を深めることができる環境整備を掲げていただけたらと思います。(山本委員)</p> <p>③子どもから大人までといった「すべての人」を対象に向けた文言があっても良いかもしれません。(鈴木委員)</p> <p>④スポーツ活動の環境を充実 ⇒ スポーツ活動の環境と機会を充実 部活動の地域移行、生涯スポーツなど参加する「場」とともに「知る、ふれる」ことにも積極的に政策展開されておりますので、加筆をお願いいたします。(吉良委員)</p> <p>⑤スポーツ、文化においては、特定の競技や団体、分野だけの充実を図るのではなく、多くの部門の活性化が相互に循環、刺激し合い、互いに高め合う共生社会の実現の視点(ウェルビーイング)を大事にする。(丹後教育長)</p>	<p>①～④加筆・修正</p> <p><u>市民誰もが</u>子どもの頃からスポーツに親しみ、体力をつけ、丈夫な体をつくることは、生涯にわたり心身ともに健やかで幸せな生活を送るうえで大切です。学校での部活動や市民のスポーツ活動の環境<u>と機会</u>を充実させます。</p> <p>⑤ —</p>

6. 丹波篠山ならではの文化を育む

(1)歴史文化の継承と新たな文化の創造

意見等	記載変更内容(削除→見え消し、追加→下線)
<p>①2文に分かれているものをそれぞれ(1)(2)として独立させ、それぞれに重点をおく事項を追記する。(西田委員)</p> <p>②地域の祭りに参加することを通じて、祭りの本来の意味を知り、現状の問題を自らのこととして主体的に捉え、継続のために考えることが、深く文化を学ぶことに繋がると思います。また歴史文化について、子どもからまで情報発信をしていくことが学びになり、文化を育むことになると考えます。デカンショバンド、こども狂言、市民ミュージカル、オペレータークラブなどは市ならではの文化活動ではないかと思います。(山本委員)</p> <p>③意見交換でありました市民ミュージカル(新しい文化創造)や地域の祭り(豊かな歴史文化)など具体的な記述を追記(吉良委員)</p> <p>④「篠山能」「市民ミュージカル」「クラフトビレッジ」「映像祭」「市史編さん」等の多様な取組が相互に高め合い、豊かな文化を育み、市民の豊かな心を育んでいる。(丹後教育長)</p> <p>⑤文化財の「保存」と「活用」として、色々と工夫をされている取組について、どの部分を伝統として守り、どの部分を次代に合わせて新しくしていったかを共有する報告書や機会があれば困っている地域や団体にとっても助かるのではないでしようか。(吉良委員)</p>	<p>①加筆・修正</p> <p>(1) 歴史文化の継承と<u>新たな文化の創造</u> 丹波篠山市に住むことの良さが感じられるよう、<u>史跡や地域の祭礼などの豊かな歴史文化を守り伝えます。</u></p> <p><u>(2)新たな文化の創造</u> 市民が行う芸術・文化活動を支援し新たな文化を創造することで、丹波篠山の魅力を高め丹波篠山が誇る文化力の向上に取り組みます。</p> <p>⑤施策の中で検討していきます。</p>

6. 丹波篠山ならではの文化を育む

(2) 身近な森との関わりから「木育」を推進

意見等	記載変更内容(削除→見え消し、追加→下線)
<p>①1(4)に移動する。(西田委員)</p> <p>②1ふるさと教育の、(3)自然とふれあう教育に入れるなどでも良いのではないかと思います。(山本委員)</p> <p>③本文:1へ(吉良委員)</p> <p>④「1. ふるさと教育」へ移動(丹後教育長)</p> <p>⑤全小学校全学年に丹波篠山産の木材を使用した机・椅子を導入し終えた今、小学生は今後どのように「木育」と関わっていくのでしょうか？(鈴木委員)</p>	<p>①～④1(3)と合わせます。</p> <p>⑤子どもたちが学校で最も身近に「木の香りやぬくもり」を実感できる丹波篠山産の机・椅子の整備は完了しました。この環境も活かしつつ、引き続き機会を捉え「子ども樹木博士」の取組等、様々な機会の木育を取り入れるようにしています。なお、丹波篠山産の机・椅子については、卒業時に天板を卒業記念として贈っています。</p>

7. あいさつの励行

意見等	記載変更内容(削除→見え消し、追加→下線)
<p>①登下校時の温かいあいさつ(おはよう、いってらっしゃい、お帰り、停まってくれた車への礼等)が、子どもたちの温かい心や郷土愛を育んでいることを追記する。(丹後教育長)</p>	<p>①修正 ～地域や学校にも浸透し、<u>での</u>「おはよう」「こんにちは」などの<u>飛び交う</u>元気な声が<u>飛び交うようになりました、子どもたちの温かい心や郷土愛を育んでいます。</u></p>

▼その他

意見等	記載変更内容(削除→見え消し、追加→下線)
<p>①「ふるさと教育」は従来から篠山在住の方々に対しては重要な意味を持ち、移住者にとっては文化や美味しい食、豊かな自然とふれあうことができるという点でも本当に魅力的に感じ、移住の決め手にもなっていると思います。ただ、その反面、現代の多くの親が子供に望むことは「どんな社会でもたくましく生き抜く力を身につけてほしい」ということではないかと思えます。その必要な力として、親が大切に思うのは未だに「学力」であり、進学するには受験という壁があることから、子どもが中学生以上になると、途端に塾通いや市外の高校を検討するのが多くの家庭にみられる現実です。それ故に、市外からの移住先に選んでいただくためにも、「学校の授業だけでも十分な学力が身につくこと」や、「どんな社会でも生き抜くことのできる力を育てる(キャリア教育等)教育」などの取り組みがなされているという強いアピールがあると、親の立場としては魅力的な教育をされていると感じるところです。「ふるさと教育」から、教科書では学べない色んな力がつくことは間違いのないことですが、2 番目には「学力の確立と向上」を強く押し出されるのはいかがでしょうか。子育て支援の充実や地域と共にある学校は、教育の土台の部分として本当に重要でありますので、何とも言い切れませんが、また項目の順番について協議する機会を頂けましたら幸いです。(山本委員)</p>	<p>① ー</p>
<p>②昨日、古市小学校においてゲスト授業に行ってきました(3 年生の総合、3～4 時間目)。黒豆を対外的にアピールしていくための情報提供という目的で、日本農業遺産や農園の取組み、古市小とのコラボ(2021 年にアメリカの大学と古市小との交流会など)を紹介しました。農業に関わるものが減ってきている子どもたちにとって、「体験」から学ぶことは非常に大きいと感じました。同時に、体験していないことについては、いくら写真や動画などで紹介しても「知っている」ところから「学</p>	<p>② ー</p>

び」へとつなげるのは難しいのかもとも感じました。農業については関わりが薄くても、生きもの話には興味を持つ子が多く、「農」「森」「歴史」「生きもの」「AI 時代のツール」を体験でつなげていく総合的なものが地域と一緒に作りあげていけるとワクワクします。(吉良委員)